

## 第3回 鶴川西地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事録

開催日時	2022年4月25日（月） 9：30～10：35	
開催場所	町田市立鶴川第三小学校 体育館棟1階視聴覚室	
出席者 （敬称略）	委員	豊田範子、杉山由香子、平城聖子、槇田美哉、大堀亜美、北川もと、竹村礼子、田中昭光、大隅明、仲村清彦、浅沼秀作、井上正義、◎鰭坂映子、○悴田隆良（◎会長 ○副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター
傍聴者	0名	

## 議事内容（敬称略）

## 1 基本計画検討会委員の変更と第2回基本計画検討会の振り返り

新たな学校づくり推進課 （資料1-1～3説明）

## 2 意見募集結果について

新たな学校づくり推進課 （資料2-1～2説明）

会長 この意見募集は、新たな学校づくりに向けた今後の様々な検討に活用していくことになる。ご意見をしっかりと捉えて検討に活用していくことが重要だと思う。

この意見募集の結果を受けて、委員に、考えや所感を伺いたい。

委員 意見募集で、新しい学校に引き継ぎたいもの、歴史の継承とあるが、これは学校の歴史のことか。この地域は卒業生も多く、自分たちが作った卒業制作等のこともある。

新たな学校づくり推進課 歴史の継承では、どんなものを引き継いでいくか、どんな項目があるかを話し合う。

委員 トイレの「洋式」と記載するべき箇所が、様という「様式」、になっている。

あと、子どもの意見で「伸び伸び」と「積極的」などの、肯定的な意見が多く、とてもいいと感じた。学校の教育の中で、子どもは伸び伸び育っていると感じているので、そのような子どもの声の回答があったことはよかったと思った。

新たな学校づくり推進課 文字について訂正させていただく。

委員 新しい学校に引き継ぎたいもので、鶴川第四小学校で、「つるよんまつり」とか「兄弟学級」とかが出ているが、どういう経緯で始まったのかというような歴史的事を理解した上で検討した方が良いと思っている。

「つるよんまつり」が始まった際に、校内でどういう議論がされたか、ゆとり教育が始まる時に始まったイベントだが、そのような経緯があるので、そういうことも踏まえてしっかりと検討していかなければいけないと思う。

会長 第4回新たな学校づくり基本計画検討会において確認する。

委員

2つの学校が統合するので、学校の子どもたちに伝えたい目標、どこの学校でも大体3つか4つぐらいあり、それを子どもたちが学校生活の中で身につけ、社会に出てからも、そこで養った心が残る。歴史がある学校であればあるほど3つぐらいの柱立てが大切に今でも残っている。

そういう点で気になることは、一緒になるときに三小と四小でそれぞれ大事にしてきたものをどのように調整していくのか。先生を交えて作っていければと思う。

また、校歌のこと。それぞれの学校の歌に、子どもたちに理解してほしい言葉が出てくる。

そして最後に、学校名。どなたがどこで2つの学校に対して校名をつくるのか、どうなるのかということが気になっている。

新たな学校づくり推進課 まず育てたい子ども像の部分だが、本日の議事4つ目で話しをする。いろいろな意見募集の結果も踏まえ、次回以降、議論をしていき、最終的には両校の校長先生に決めてもらう。

学校名は、本日の議事3つ目で、5月・6月で意見募集を実施する。それについて、この意見募集を実施した後、8月・9月頃に案を3つほど考えていくプロセスを経て、その3案を広くお知らせし、改めて意見をもらいながら、最終的には教育委員会で決定をしていく。

### 3 学校名意見募集について

新たな学校づくり推進課 （資料3-1～3説明）

委員

学校名で基準に「長い学校名にならないように」と記載があるが、この「長い」は木曾境川小や、成瀬中央小、小山中央小の漢字で4文字くらいは許容範囲か。4文字で学校名を考えている。

新たな学校づくり推進課 現在ある学校の名前では、漢字4文字や平仮名も含めたら「南つくし野小」の5文字もある。そのような状況を含め、この学校名を検討会の中で話すことができていると考えている。

委員

名前のことで、その学校名を使うのは私たちではなく、今後そこに在校し、卒業していく子どもたち。言いやすさや書きやすさよりは、将来的にここを卒業したというときにあまり恥ずかしくないような名前のほうがいいと思う。あまり奇をてらったようなものではなく。そのことを踏まえて、私たち大人の意見というよりは、子どもの意見の中でしっかりとしたものを反映させたい。

### 4 育てたい子ども像について

新たな学校づくり推進課 （資料4-1～2説明）

会長

この項目では、日頃から児童や学校に密接に関わっている委員に意見を伺いたいと考えている。新しい学校ではこんな子どもに育てほしいという意見や、意見募集の結果を見て感じていることや、不明点や質問なども含め、1人ずつ発言してほしい。

委員

2つの学校が一緒になるため、教育基本法から、町田市の教育目標と鶴四小、鶴三小がどういう教育目標を掲げているかと調べてみて、考えた。教育基本法の第1条のところでは、教育の目的が「平和で民主的な国家及び社会の形成者を育成する」とある。これが第1。そして、目的を達成するための目標で幾つか書いてあり、その目標の一つ目に、「幅広い知識と教養を身につけ」とある。要するに、次代を担う、社会を担っていく人材を育てていくためには、そういう知識や教養をしっかりと身につけなければいけないということを基本としてうたっている。私は小学校で一番大切なことは、子どもたちに確かな学力を身につけさせることであると考えている。小学校を卒業するに当たり、掛け算や九九など計算もできない、漢字も書けないでは駄目。とにかく知識や教養を身につけることに力を入れなきゃ駄目であると思っている。

そして、もう一つは、これからできる学校の子どもには、ここにずっと住みついて、自分の子や孫も、自分が大人になったらこの地域を担っていく、そういうことを考える子どもが育ってほしいし、育てていきたい。

委員

私は学生時代の20歳から35歳ぐらいまでは町田市にいなかったが、その後は町田市に住んでいて、昔は町田市全体でも小学校が6校しかなかった。中学校もそれだけしかなかったのが、今は中学校が20校になって、小学校が40校になって、人口が減ればまた自然にそれに合わせていく。最終的には、この地域だけで徒歩通学範囲内ということで考えているが、事と次第によっては1つの小中学校で3000人から4000人集めて、そこへスクールバスで町田市全体から集まってくる学校なんていうことだって国によってはやっているのだから、そういうことも含めて、できるだけ理想的な教育環境をつくれるように協力したい。

委員

2つの学校が一緒になってそれぞれの教育目標を決めるというのは大変難しいと思うが、子どもたちが理解し、卒業しても心に残るようなまとめ方ができればいいなど。

委員

知的なもので、「興味」というのは、本当に面白いとすごく身につく。関心を持ってくれる。理科であれば当然実験なんかをやるとすごく関心を持ってくれる。知的というのは、やっぱり自分に関心がないと、なかなか身につかないと思っている。

それから、いじめ。今の鶴川三小、鶴川四小の意見にもあるように、思いやりのあるというのはどうやって教育したらいいのか。私は全然知識はないが、気持ちだけではできない、何らかの、昔で言うところの道徳みたいな教えの仕方というのが何かできないのかと思っている。

委員

憲法と教育基本法は大切に、これに沿った形で考えていきたい。

それと、たくましい心、たくましい体、これはどんなに障がいがあってもきちっとたくましい心を持っていけば健全に生きていけると思う。

それから、あとは分かる喜び、本当に分かったと思うと、子どもは自然に次へ次へと興味を持っていくと思うので、分かる喜びを伝えられるようなことを考えていきたいと思う。

委員 基本的に今の鶴川第四小で掲げてもらっている教育目標とそんなに変わりはないんですけども、自己肯定感が低い子が本当に多いと思う。子どもも大人も含めて、みんな違ってみんないいじゃないですけども、その部分を一番に子どもたちには考えてほしい。その中で伸び伸び育ってほしい。個性を認め合って、まずお互いを知ろうとすることという気持ちを大切にできるような目標があるとうれしい。

委員 鶴川三小と鶴川四小でつくられている教育目標が、「知」「徳」「体」をカバーしつつ、言葉が違うが、大体同じようなところでいて、これはすごくバランスがいいなというふうに思っているので、基本的にこんな感じで思っている。

個人的には、思いやりのある子、友達を大切にする子という部分を一步進んで、多様性を大切にしようとするところを入れていたら分かりやすいかと思っている。鶴川四小のほうでも、鶴川三小でも様々なバックグラウンドを持っている児童が各クラスに1人はいるという状況。支援級があったりや、相手の気持ち、立場を理解することの前段として、いろんな立場の人がいるということを知るといふか、それが当然だということを知るといふ前提にして、その上で気持ちや立場、いろんな感じ方、考え方の人がいるということを学校側が進んで教えてあげるような、そういったことがあったら分かりやすいと思う。

あともう一つは、何ととっても学校なので教育という、学習、知識を教わるというところがまず本分なので、それも進んで考える子というこの前段としての話で、勉強、学習というものを1本柱としてもいいのかなというふうに思った。

委員 重複するところがあるが、友達の中ですごく心が育まれている。あと先生との関わりの中でいろんなことを学んでいるということを感じるので、親との日頃の話合い、家庭での話合いもとても大切だと思っている。

その中で、世界情勢もウクライナのこととかもありますけれども、一緒に考えたりとか、一緒に語り合ったりすることをとても大切にしているが、これから、私たちが想像以上に情報を手に入れることがすごく氾濫をしていて、何が正しいか、何がうそかを見抜く力がすごく大事になってくると思う。その力をつけられるだけの教育がすごく大事だなと思っている。それが何なのかは、明確には自分の中では分からないが、周りにもなかなか本を読まないという声が聞こえたりするので、読書、いろんな分野の本を読んでいく、また新聞を読んでいく、そういうことがすごく大事だなと具体的にとても思っている。そういうことも鶴川三小の中で「知」「徳」「体」のほかに、「正しいことをやりぬく子」という教育目標はすごく私は大好きなんですけれども、その正しいことが何なのかというのを自分で判断できる子どもをこれから育てていかなきゃいけないというふうに強く強く、この情報化社会の中ですごく感じている。

委員 周りを見ていると、子どもたちが見て見ぬふり、何かあっても自分じゃないからと逃げる子たちもいる。それって、いろんな人と交流して、意見交換や、色々な人と関わらないと、子どもたちも分からない。そういう部分にも力を入れてやっていっ

てもらえたらと思う

委員

教育目標なので、あくまでも子どものためにあるべきなのかなと思っている。どうしてもこういう目標を立てるときに、きっと大人は、言い方は悪いが、子どもたちに都合よく教育しやすい、指導しやすい子ども像のようなものを理想に掲げがちに思ったりする。先ほどの学校名じゃないが、その目標に掲げたことで、子どもたちが将来どういう子どもに育っていくのかまで広く視野に入れてつくっていかなくてはいけないと思うし、目標なので簡単な言葉にしなくてはいけないのは分かるが、その一つ一つの目標のバックグラウンドも考えつつ、また、大人はこういう機会を持つことはすごく稀有なことなので、その目標自身、自分自身が本当にその目標ができるのか、正しいことと一言で言っても、その正しいことって説明できるのか、理解しているのかということきちんと大人として振り返るいい機会なんじゃないかと思った。なので、やっぱり子どものそういう成長の先まで、将来まで見て目標はつくってほしいと思う。

委員

1つ、将来、今も大人もそうだが、もう少し精神的に打たれ強い気持ちも必要と思う。大人になっても家から出られないなどと最近よく聞くが、思いやり接し方をすればそんなことは起こらないと思う。本当に打たれ強い精神力が必要と思う。

委員

本当に委員の皆の意見、私もそのとおりだと思う。ぜひこれを反映させていきたいと思う。

委員

個人的な意見として、学校というのは、まず学びの場であるということが第一と考えています。では、その学びの場の「学び」というのは何だというときに、「知識」であるのが1つ、そして、今なかなか集団の中で人間関係を学ぶ場というのがないなと個人的には思っていて、学校というのは集団を形成する場であり、その中で自分の立場であるとか相手を思う心であるとかを学ぶ場であると思っている。そういうことをトータルの考えて、町田市教育プランにも「大きな変化が予測されるこれからの社会において」という言葉があります。これはほかの自治体でも、これからの未来においてとか、将来とかいう言葉を使って表現している。ので、新しい学校をつくるというこの機会に、これからの時代、新しい未来、そこで生き抜く力とか、牽引する力、活躍できる力が身につけられるということ子どもたちとやっていきたいと考えている。

委員

個人的には、努力、忍耐、根性が、今、子どもたちにはとても疎まれているし、時代もそれを望まないというふうに言われることもあるんですけども、私はやはり皆さんの中で言われたたくましい心とか、打たれ強い気持ちというところを大事にしたいと思いますし、集団で学ぶ場所である、そこをとても大切にしていきたいという気持ちがある。こういうバックグラウンドを共通理解しながら新しい教育目標がつけられたらいいなと思った。

## 5 第4回基本計画開催概要

新たな学校づくり推進課 2022年5月23日（月）9時30分～鶴川第四小学校を予定

6 閉会  
会長

(閉会の挨拶)